

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームたんぽぽ(第1)	評価実施年月日	2008年4月
評価実施構成員氏名	柴田 光代 小松 美恵子 寺前 由紀子 中村 聡 長谷川 清子 谷口 敦子 海上 薫 星 環 中野 久美子 佐藤 みな子		
記録者氏名	柴田 光代	記録年月日	2008年5月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>住み慣れた地域での安心した暮らしを支える為の理念を策定している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日常的な会話の中で職員、施設長と理念に基づき介護のあり方について話されている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には訪問時に折りに触れ伝えたり、地域の方にもホーム見学時や話をする機会には地域の中で暮らす大切さを伝えるようにしている。</p>	○	<p>町内会回覧板にて情報誌を回覧していく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内の人・近所の方とも挨拶をしたり、情報交換をし、よく立ち寄っている。日常的に毎朝食器を洗いに来てくれたり、利用者と会話をしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入している。市内で行われているお祭り、文化祭、発表会には利用者とともに積極的に参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ヘルパー2級研修の実習生を受入れている。福祉について学びたいという地域の生徒の自主学習を行っている。ふれあい健康センターでの介護予防教室に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、外部評価の結果を踏まえて会議で検討し、改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では事業所からの報告事項が主となりがちだが、検討事項では広く地域の情報を交換しながら今後のサービスを検討している。運営推進会議を通してボランティアが生まれ具体的に活動されている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括支援専門員会議に毎月出席し交流を図っている。入居者、退去者の報告、情報の開示等の要件や国保連からの情報提供についての連絡等で都度担当者とは情報交換を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者・一部職員は研修をしている。支援活動はした事がない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待の研修に参加し、会議で伝えたり、研修報告を全職員に閲覧している。職員同士、日常の中で確認している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居者には契約の前にホームを訪問して短時間過ごして貰い不安や疑問点を尋ねて貰うようにしている。契約時には時間をかけ説明し、同意を得るようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の望んでいる事を言葉や態度から適切に見極め、意見、不満、苦情を表わせるよう心がけている。家族とも常に情報交換を心がけており利用者の思いを代弁してもらうようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月個別に生活状況報告書を作成し健康状態、生活の様子、職員の異動等を知らせている。金銭管理は請求書と一緒に預かり金の明細を記入し領収書添付の上送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には何でも言ってもらえるような雰囲気を作るよう留意している。家族より出された要望、意見は全職員に伝え反映されている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、連絡ノートを活用し反映されている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	通院時は別途職員を配置したり、外出時の時間帯は手厚くなるよう事前にミーティングをし対応している。代番のスタッフがいる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員が対応できる体制がいつも取れるよう異動は最小限に抑えている。交代時には数日間前任者と複数で介護にあたっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>北海道、グループホーム協議会主催の研修会には経験年数に合わせ順次研修を受けている。研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p> <p>日常生活支援の場で指導・助言がされている。</p> <p>テーマを決め内部研修を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>南空知ブロックで管理者・ケアマネ会議を開催している。参加して交流を深め職種事の連携を深めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>利用者と離れ一息入れる時間を作るようにしている。職員同士の人間関係を把握するよう努めている。ホーム全体では年に一度親睦会を開催しており、個々でも何かの折には交流会を開催し気分転換を図っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者が現場で実務に就くこともあり、職員の業務や悩みを把握している。職能評価を行っており、向上心を持つよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の望んでいる事を時間をかけ聞いたり、行動から適切に見極め受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでの経緯をゆっくり聞くようにしている。家族が求めている事を対話の中から見極め、ホームでどのように生活していくにかを話し合っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業者のサービスにつなげるような対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族がホームを見学し、体験入居をするなど本人が利用を納得されるよう時間をかけて対応している。やむを得ず入居された時は家族やそれまで関わっていた方に来訪してもらい安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	得意分野で力を発揮してもらうための場面設定工夫と配慮をしている。支援する側という意識を持たずお互いに協働しながら和やかな生活ができるように声かけをしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子を生活状況報告での文書や電話、訪問時にきめ細かく伝えることで家族との協力関係が築かれていっている。家族を取り巻く状況も訪問時に伺い情報交換がされている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	クリスマス会や誕生会等、本人と家族が生活活動を一緒にできる機会を設けている。本人の健康、生活状況をこまめに報告・相談するとともに、電話をかけたり手紙を本人に書いてもらうなど関係が途切れないうちで、来訪時は本人と家族の潤滑油になるよう心がけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている。	買い物や外食は地域の馴染みの店へ出かけている。毎月の命日にお寺さんがお参りに見えたり、知人が遊びにきたり、継続的な交流ができるよう働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合った者同士過ごす場面づくりをするなど職員が調整役を努めており、利用者同士が手助けをし合ったり、寂しがる人の側に居て上げるなど気持ちの支え合いもみられる。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	遠くに転居された利用者1名のみが終了されており、ご親戚、知人とはお会いした折には情報を交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声を掛け把握に努め、言葉や表情から真意を推し測り、確認するようにしている。家族、職員関係者とともにどのように暮らすことが本人の希望であり、最良なのかを検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人や家族からどのように生活されていたかを聴いている。日々の生活の中で本人の話される会話からこれまでの生活を把握するよう努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護支援記録に一日の過ごし方、心理状態が記載されている。個別の24時間シート、できること・できないことシートを記載することでその人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを実施している。介護計画作成時には家族の意見が聞けるよう、話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画と照らし合わせながらサービス提供状況を把握し、状態が変化した時には検討見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の支援記録には食事・水分・排泄等の身体的状況、暮らしの様子が記録されており、全職員が確認している。職員の気づき、状態変化は職員申し送りノートに記載され、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かし、重度化した時でも生活の継続を支援している。受診、理、美容、他の福祉施設に入居されているご主人との面会等、多機能を活かした支援につとめている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	安心して暮らしていけるよう警察へ利用者の状況を連絡している。周辺施設へ出かけたり、児童館、ボランティアへ協力を呼びかけている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	社会福祉協議会と連携をとり、介護ベット・車椅子の借用をしている。又老人福祉大会や介護予防体操に参加している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで月に一度開催される支援専門員等会議に参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報交換を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人や家族の希望に合わせ協力医の他、かかりつけ医での受診、往診、専門医での診察等複数の医療機関と関係を密にしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院に専門医がおり、利用者個々に診断を受けている。市外の物忘れ外来で診察を受け、指示・助言を受けている利用者もいる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションとの契約に基づき看護師と医療機関との連携を密に取れる体制を確保している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。家族ともこまめに情報交換しながら、早期退院につなげている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホーム独自に終末期生活支援に関する覚書を作成し、一部の家族と話し合いが始まっている。ホームで看取りの場面も体験した。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化に向われている利用者については、かかりつけ医と話し合い、今後の変化、日々の暮らし方について検討しスタッフがチームとして支援に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>4年間移動された方はいませんが、介護添書の中で、これまでの生活が損なわれないうちに、きめ細かい情報を提供して行きたい。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>誘導の言葉かけには本人を傷つけない対応に配慮しており、ミーティングで日々の関わり方を徹底している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合った話題の言葉かけを心がけている。本人が決める場面をつくり、時間をかけて待っている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。本人の思いを把握し、その人なりの体調に配慮しながら個別性のある支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>洋服は主に家族が用意されており、日々お互い着ている服を褒め合い会話が弾んでいる。行事の時はお化粧をし、アクセサリーをつけてお洒落を楽しんでいる。理容・美容は本人、家族の希望店へ出かけパーマ、髪染めなどもしている。外出困難時は出張美容にてカット、パーマをしている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の好みを取り入れ、調理・盛り付け・あと片付けを利用者と共に行っている。職員と利用者は一緒にテーブルを囲み、音楽を掛けたり、会話をしながら楽しい雰囲気づくりを大切にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みのおやつや飲み物を近くの商店へ買いに出かけている。ビール等の酒肴品は誕生会・居酒屋・焼肉会等の行事の時に楽しんでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握して、一人ひとりの状況に合わせて、さりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日を除き、希望を重視して毎日入浴を実施している。時間帯は午後からになるが、早く入りたい人、遅い入浴を希望する人を把握し声掛けで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	活動時間、午睡時間と1人ひとりに生活リズムが作られ夜間も安眠されている。不眠を訴える利用者にはゆったり寄り添う、温かい飲み物を飲んでお話をするなど支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で1人ひとりの力を発揮できるように、できそうな仕事、やりたいことを頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の買い物をした時はご自分で支払うようにお金を手渡している。家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩、買い物、ドライブに出かけている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	海に行きたい。温泉へ行きたいなど利用者の思いを実現するため 職員の勤務体制を調節し、他ユニットと協力して実施している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望により電話をかけている。小包や手紙が届いた時には報告の電話をかける事を勧めている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人の訪問を職員は快く迎え交流をしている。お茶などを用意して、居室でゆっくりと過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	数名の職員は権利擁護や身体拘束の研修会に参加しており、会議やミーティングで全職員に伝達しており、日々の申し送りの中で身体拘束が行われていないか検討されている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵は掛けていず、利用者が外出しそうな様子を察知した時はさりげなく声をかけて一緒に行くなど安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	さりげなく全員の状況を把握するよう努めており、常に職員が見守っている。 夜間は2時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所が決められている。利用者の状況に合わせて置き方を工夫したり、保管場所を変更するなど配慮している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	『私の気づき・ヒヤリハット報告書』『事故報告書』を記録し、職員会議で対応を検討、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルは整備され、消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を受けている。	○	全ての職員が応急手当や初期対応ができるよう定期的に学習会を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を経て年2回利用者と共に避難訓練を行っている。町内役員会、運営推進会議にて災害時の協力を呼びかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	抑圧感のない暮らしが利用者の表情を明るくする事を家族に見てもらっており、理解が得られている。身体状況を配慮した対応策を家族と話合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を職員は把握しており、様子に変化が見られる時はバイタルチェックを行い、記録をつけている。状況により医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時は本人に手渡し、服用している事を確認している。服薬ファイルの作成や医療ノートに内服内容も添付されている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表で確認し利用者に合わせた対応をしている。ヤクルトの飲用、下剤の調整、運動を勧めるなど、毎朝の申し送りで快便を促すよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後自力又は介助を受け全員が口腔ケアに取り組んでおり、就寝前は義歯を洗浄している。月に2回歯科衛生士が口腔内洗浄をしている利用者もいる。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。利用者の希望や趣向に合わせて食事を提供し、献立にあわせたカロリー計算をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づき、うがい・手洗いの徹底して行っており、ペーパータオルを使用している。毎日2回、トイレ・手摺の消毒を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。なるべく買いためをせず、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にベンチを置き、明るい玄関になるよう花を生けたり置き物を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一昔前の家庭の調度品、どこの家でも使っている物品、手作りの壁飾り等懐かしさと暖かさの感じる空間作りを工夫している。日差しの強い時はスクリーンで調節を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室と食堂間に仕切りを設けたり、廊下、玄関前に椅子を置き1人ひとりの好みに応じて過ごせる空間が用意されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、ペット等を持ち込み家族と共に居室を用意されている。本人の大切に思っている家族の写真を貼ったり、ミニ盆栽を置くなどその人らしい部屋づくりをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全室に温湿度計を設置し温度調節を行っている。空気清浄機を使用したり1日一度は窓の開閉により換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>玄関・トイレ・浴室・居間・廊下の要所に手摺が配置されている。洗面所は車椅子対応で、台所は対面キッチンで下膳が各自でされている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室には手作りの名前を付けたり、場所の記名やマークを記している。水道栓の扱い等で困っている利用者にはモデリングにて対応している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダには縁台があり、花壇・畑・物干し台へと続いており、利用者が日常的に活動できるようになっている。ユニットの全面に園庭が設置されており、ベンチで休んだり、会食を楽しむこともある。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	①

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

昨年6月より月に一度ですが音楽療法を取り入れています。参加したい方だけで実施していますが、今では全員が声を出して色々な場面で唄われるようになりました。